

はじめに

日頃より、本県の乳幼児期における教育及び保育の振興にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。「乳幼児の育ちと学び支援センター」では、令和3年4月の設置以来、施設類型を問わず保育者を対象とした研修会の開催や、保幼小連携の推進、幼児教育アドバイザー等による訪問支援など、様々な取組を進めて参りました。

人口減少や少子高齢化の加速、グローバル化の進展など、社会が大きく変化する中で、予測困難な時代を生きる子どもたちには「生きる力」を育むことが重要視されています。特に、人格形成の基礎を培う重要な時期である乳幼児期においては、一人ひとりに応じた、遊びを中心とした総合的な指導を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する幼児教育・保育の質の向上が求められています。このような時代の要請に応えるため、本センターでは、皆様からのご意見を踏まえ、現場のニーズや課題に応じた「学びの実感を伴う研修」をめざし、企画・改善に取り組んでいるところです。

さて、幼児教育・保育の質の向上に向けた取組は多岐にわたりますが、園独自の課題に対応した「園内研修」は、実践的な研修として欠かすことのできない重要な取組です。

そこで、本センターでは、園内研修の一層の充実を図るため、本手引きを作成いたしました。これまで、県内の園からは、「園内研修はどのような流れで進めればよいのか。」「課題を解決するためにはどんな手法があるのか。」「研修時間が十分に確保できない場合はどうしたらよいのか。」等の多くの悩みや相談が寄せられてきました。本手引きでは、こうした声に応じて、園内研修の意義や進め方、課題に応じた多様な手法などをまとめております。園内研修を企画・実施する際の参考としてご活用いただければ幸いです。

なお、本センターのアドバイザー等が園を訪問し、園内研修の実施を支援することも可能です。どうぞお気軽にご相談ください。

皆様方におかれましては、今後とも本県の乳幼児期における教育及び保育の充実に向け、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、本手引きの作成にあたり、貴重な事例をご提供頂きました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

令和8年3月

山口県乳幼児の育ちと学び支援センター
所長 田中 マキ子

Contents

はじめに

園内研修の意義

園内研修の必要性	1
1 園内研修とは？	
(1) 保育者の学びの場	2
(2) 園全体で育ち合う風土づくり	2
2 有意義な園内研修にするには？	
(1) 園内研修のポイント	3
(2) 一人ひとりが研修の主体	4
(3) それぞれの立場を生かして	5
(4) 学びをつなぐファシリテーター	6
column ファシリテーターの役割をチェックしよう	7
3 どうやって研修を進めるの？	
園内研修スタートナビ	8
(1) 研修テーマの決定	9
(2) 研修計画の立案	10
(3) 研修の実施	11
(4) 研修成果の活用	14
column 小学校とのつながりを学ぼう	15

やってみよう！ 園内研修

1 どんな手法があるの？	16
2 研修手法例	
(1) マインドマップ	17
(2) リフレーミング	19
(3) フォトラーニング	21
(4) ラベルワーク	23
(5) KPT 法	25
(6) エピソード検討	27
(7) 園内公開保育	29

園内研修実践事例

(1) ちょこっと園内研修 ～お昼寝時間を利用して～	31
(2) 環境構成を園全体で共有しよう ～マップ作成を活用して～	33
(3) 保育を振り返ろう ～ドキュメンテーション作成～	35
(4) 保護者対応について考える ～ラベルワークを用いて～	37
(5) 子どもの主体性を求めて ～「主体的な保育」について園全体で考えよう～	39

【巻末資料】 すぐ使える研修シート

★ 園内研修テーマ検討シート	41
★ リフレーミングシート	42
★ フォトラーニングシート	44
★ エピソード記録シート	45
★ 保育カンファレンスシート	46
★ ドキュメンテーションシート	47



園内研修 の意義



★園内研修の必要性

子ども一人ひとりを育てていくためには、保育者が協力して一人ひとりの実情を捉えていくことが大切です。子どもの興味や関心は多様であるため、並行して様々な活動をしている子どもを同時に見ていかなければなりません。このためには、保育者同士が日頃から連絡を密にすることが必要であり、その結果、園全体として適切な環境を構成し、援助していくことができます。保育者が相互に子どもに関わり、互いの見方を話し合うことで、保育者が一人では気付かなかったことや自分とは違う捉え方に触れながら、職員全員で一人ひとりの子どもを育てるという視点に立つことが重要です。

このような保育者間の日常の協力と話し合いを更に深め、専門性を高め合う場が「園内研修」です。園内研修では、日々の保育実践記録を基に多様な視点から振り返り、これからの在り方を話し合っていくことを通して、保育者間の共通理解と協力体制を築き、保育及び教育の充実を図ることができます。

保育者同士が各々の違いを尊重しながら協力し合える開かれた関係をつくり出していくことが、保育者としての専門性を高め、園の保育の質を向上させるために大切です。このことは、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」全てに「保育者間の協力体制」の必要性として言及されています。

日々成長する子どもたちへ生き生きと対応する保育者であるために、私たちも日々学び続けなければなりません。保育者としての誇りと責務を胸に、仲間と共に向上できる身近な機会が「園内研修」だと言えます。



I 園内研修とは？

園内研修とは、園内の保育者が仲間と共に学び合う取組です。実践に根ざした気づきや対話を通して、保育者一人ひとりの成長と園全体の保育の質の向上の両方が期待できます。

(1) 保育者の学びの場

日々の保育を振り返り、見直す

園内研修は、保育者が日々の保育を立ち止まって見つめ直すための時間です。子どもの姿や自分の関わりを振り返り、気づきを言葉にして仲間と共有することで、感覚的だった考えが整理され、次の実践に生かす視点が見つかります。こうした振り返りの積み重ねが、日々の保育の改善につながり、保育者としての成長を確かなものにしていきます。

専門性を育てる

園内研修では、日々の実践を発達や保育の理論と結び付けて考えることで、子どもの育ちへの理解が深まります。また、保育を言語化し、仲間と対話することで、自分では気付かなかった視点や方法に出会い、子ども観や保育観が広がります。子どもの育ちをより深く理解し、豊かに支える力が育つことで、保育者としての専門性が高まっていきます。

(2) 園全体で育ち合う風土づくり

理念を保育に生かす

園内研修は、園が大切にしている理念や保育方針を保育者一人ひとりが理解し、日々の実践へとつなげていくための重要な学びの場です。「私たちは何を大切にしているのか。」「どのような保育をめざすのか。」が共有されることで、園全体の方向性が明確になります。理念が日々の保育に根付くことで、実践がより一貫性をもち、深く、豊かなものへと発展していきます。

職員間のつながりとチーム力を育む

園内研修は、保育者同士が互いの経験や考えを共有し、学び合う場でもあります。立場や経験年数に関わらず意見を出し合うことで、職員間の信頼関係が深まり、チームとしての一体感が生まれます。「一人で悩まない。」「みんなで考える。」といった風土が育つことで、日々の保育にも協力体制が自然と根付き、職員同士の連携が強化されていきます。

園全体の保育の質を高める

継続的な園内研修は、園の「学び合う文化」を育てます。一人ひとりの保育者の成長が子どもたちの育ちを支える環境に変化をもたらし、園全体の成長へとつながります。保育者同士が互いの違いを認め合いながら、共通の願いや方向性を共有し、協働的に保育の課題に向き合うことで、園全体が一つのチームとして育ち、保育の質が高まっていきます。

2 有意義な園内研修にするには？

(1) 園内研修のポイント

園内研修は、園内で実施するため、日々の保育の延長線上で行いやすいという特徴があります。実践に根ざした内容を扱うことで、職員一人ひとりの気づきや学びが深まり、チームとしての連携も強まります。

研修の効果を十分に引き出すには、目的の明確化や進め方の工夫が必要です。以下のポイントを意識し、柔軟に組み合わせることで、より有意義な研修が実現できます。

① 目的とねらいを明確にする

「何のために研修を行うのか」を全員で共有します。園の課題に即した具体的なねらいを設定すると、参加者の心が揃い、保育の変容につながりやすくなります。

② 参加型の内容にする

一方通行の講義ではなく、短いワークや少人数討議などを取り入れます。多様な経験を引き出す場をつくることで理解が深まり、実践につながります。

③ 具体的な事例を活用する

日々の保育で起きた事例を取り上げて学びを深めます。現実に関した内容を扱うことで参加者の関心と理解が高まり、議論が現実的になって応用しやすくなります。

④ 安心して話せる場をつくる

リラックスできる工夫をし、話しやすい雰囲気をつくれます。安心して率直な意見や悩みを出し合うことで、建設的な対話が生まれ、学びが深まります。

⑤ 外部の視点を効果的に活用する

必要に応じて外部講師や専門家を招くと、新たな視点や客観的な視点を取り入れられます。内部だけでは停滞しがちな議論を活性化するきっかけになります。

⑥ 振り返りを習慣化する

学んだことをその場で振り返って言葉にし、「誰が」「いつ」「何をするか」を決めて短期でフォローアップします。「やってみたか。」「やってみてどうだったか。」を確認することで、次に生かすことができます。



(2) 一人ひとりが研修の主体

園内研修は、保育者が自分の保育を振り返り、仲間とともに学び合うことで、保育の質を高めていく大切な時間です。その時間を「義務」ではなく「楽しみ」や「気付きの宝庫」にするためには、参加者一人ひとりが前向きに、「自分ごと」として取り組むことが欠かせません。

研修は「受けるもの」ではなく「つくるもの」。その中心にいるのは、ほかでもない保育者自身です。学びが意味あるものとなるように、計画・準備から実施、そして日々の保育への応用まで、主体的に楽しく取り組んでいきましょう。

♡主体的に

研修で「何を学びたいのか」を自分で考え、主体的に行動することが大切です。自分の意見を積極的に他者に伝えるときにも、他者から学ぶ姿勢をもちましょう。

♡楽しく

楽しさは、学びを深めるエッセンス。楽しいと感じることで参加意欲が高まります。楽しい雰囲気をつくったり、楽しさを見つけ出したりして取り組みましょう。

★子ども中心の視点で考えよう

- ・ 話し合いなどの活動の際には、常に「子どもにとってどうか」を軸に進めましょう。
- ・ 保育者の思いを全面に出すのではなく、子どもに寄り添う姿勢が大切です。

★自分の保育を言葉にしよう

- ・ 実践や悩みを率直に語ることが、自分の保育を見つめ直すスタートになります。
- ・ 「気付き」や「違和感」を言語化することで、学びを深めましょう。

★多様な視点を受け止めよう

- ・ 他者の経験や考え方に触れることで、自分の保育観が広がります。
- ・ 正解を求めるのではなく、「問いを深める姿勢」をもちましょう。

★みんなで育ち合おう

- ・ 園内研修は個人の学びだけでなく、園全体の保育を育てる営みでもあります。
- ・ 「この園のみんなで育てていく」という意識をもちましょう。

★明日の保育につなげよう

- ・ 研修は保育を止める時間ではなく、「保育を育てる時間」です。
- ・ 研修で得た気付きや学びを実践にどのように生かすのかを考えましょう。



(3) それぞれの立場を生かして

園内研修には「全員参加で」が原則ですが、時間確保や職員の働き方によってもなかなか難しいところですね。

しかし、「保育者」という専門性をもつ職業である以上、どの職員にとっても園内研修等により、資質向上をめざす必要があることは言うまでもありません。

そこで、考えたいのは「立場に応じて園内研修に取り組む」という方法です。参加できない時は、復伝や記録で内容を知り、今後の保育の進め方や子どもへの対応の仕方等を伝えてもらいましょう。園内研修を企画・運営する側は、どのようにすれば、全職員に周知できるか、園のレベルアップにつながる研修になるかということを念頭に進めましょう。

新任・経験の
浅い保育者
若手保育者として



参加

＜若手保育者の皆さん＞は、研修に限らず、分からないことや不安なこと、戸惑うことを早めに先輩保育者に相談し、自分は何が分からないのか、どこまでできそうなのかを知ることが大切です。それらが相手に伝わるように意識しましょう。

園内研修では、緊張せず自分の意見を伝えるために、事前にメモ用紙や付箋紙などにテーマについての考えや思いを記入し、伝えたいことをまとめておくようにしましょう。「私の意見なんて…」と思わず、整理した考えをもとに発言し、話合いに参加しましょう。若手保育者の意見は、園にとって貴重なメッセージになりますよ。

ミドルリーダー
中堅保育者
として



立案・計画

＜中堅保育者の皆さん＞は、研究・研修面や若手指導といった多岐にわたる役割を担っているのではないのでしょうか。そこで大切なのは、先輩と後輩の橋渡し役となることです。職員の年齢層で思いや考え方のギャップから分断が生じないように努めることが重要です。

「報告・連絡・相談」を基本に、管理職とは綿密に、若手保育者には先輩としての姿を見せながら気軽にコミュニケーションをとっていきましょう。園内研修では、ファシリテーターの手本となったり、テーマや計画の立案などを担ったりと研修の推進に重要なポジションですが、一人で抱え込むことなく、周り相談しながら進めましょう。

園長・副園長・
主任等
ベテラン保育者
として



指導・評価

＜ベテラン保育者の皆さん＞は、園内研修において職員一人ひとりが気兼ねなく発言できるように、その場の「安心感」や「受容感」につながる雰囲気づくりを担います。正解かどうか、間違いを指摘されないかどうかといった不安をもたずに自由に話せるようにするなど、発言者への配慮や管理職としての立ち位置が重要となります。

若手保育者育成をはじめ、園全体のレベルアップのためには、子どもや保育者の力を信頼し、それをいかに発揮させるかという視点での考え方が必要です。一人ひとりが主人公となり主体的に意見を交わし合う経験を重ね、学び合ったり高め合ったりする園風土を育てていきましょう。

(4) 学びをつなぐファシリテーター

園内研修を「学び合いの場」とするためには、ファシリテーターの存在が大変重要です。

ファシリテーターとは、参加者一人ひとりの思いや視点を尊重しながら経験や気づきを引き出し、研修の目的に沿って話し合いが進むように支える進行役（調整役）です。安心して意見を交わし合える雰囲気をつくり、対話を促しながら、必要に応じて方向を調整していく役割を担います。

ファシリテーターの関わり方によって、研修の深まり方は大きく変わります。「学びをつなぐ役割」を意識し、学びに寄り添いながら、目的に沿って研修を進めていきましょう。

ファシリテーターの役割

① 研修の目的を共有し、場を整える

- ・ 研修のねらいを冒頭で明確に伝え、参加者の意識をそろえます。
- ・ 流れ・ルール・時間配分を説明し、全体の見通しがもてるようにします。

② 研修の進行を管理する

- ・ 時間配分を意識しながら研修をスムーズに進めます。
- ・ グループワークや発表の段取りを整えます。

③ 対話を促し、学びを引き出す

- ・ 全員が参加できるように働きかけます。
- ・ 質問や問いかけを通して、気づきや経験を引き出します。

④ 意見を整理し・調整する

- ・ 出てきた意見をまとめ、共通点や違いをわかりやすく言語化します。
- ・ 話が脱線しすぎないように、目的に沿って軌道修正します。

⑤ 実践につながるように支援する

- ・ 研修内容を日々の保育にどう生かすかを具体化します。
- ・ 「明日からできること」を一緒に考え、実践イメージがもてるようにします。



ファシリテーターの基本姿勢

傾 聴

うなずきや表情、姿勢などの非言語サインも意識し、体全体で聴く姿勢をもちましょう。言葉の背景にある思いや気持ちに目を向け、寄り添うように聴くことで、その人が大切にしていることに気付くことができます。聴くことは、安心して話せる雰囲気づくりにつながります。

受 容

「そういう考えもあるんですね。」「分かります。」「と、どんな意見も受け止めましょう。すぐに言葉が出なくても、その時間を大切に、沈黙やためらいの奥にある思いも尊重します。参加者が「どんな意見も出してよい」、「ここにいていい」と感じられることが大切です。

問 い かけ

「どう思いますか?」「どんな気持ちでしたか?」など、答えが一つに決まらない問い（オープンクエスチョン）を使いましょう。問いかけをきっかけに考えが広がっていきます。すぐに答えを求めず、少し待つことで、参加者の中にある言葉が自然に出てきます。

中 立

すべての参加者が安心して声を出せるように場のバランスをとりましょう。誰かの意見に偏らず、どの人の話にも同じように耳を傾けながら、多様な意見を引き出します。気持ちには寄り添いつつも、話の内容に対しては評価や誘導をしないことが大切です。

Column

ファシリテーターの役割をチェックしよう

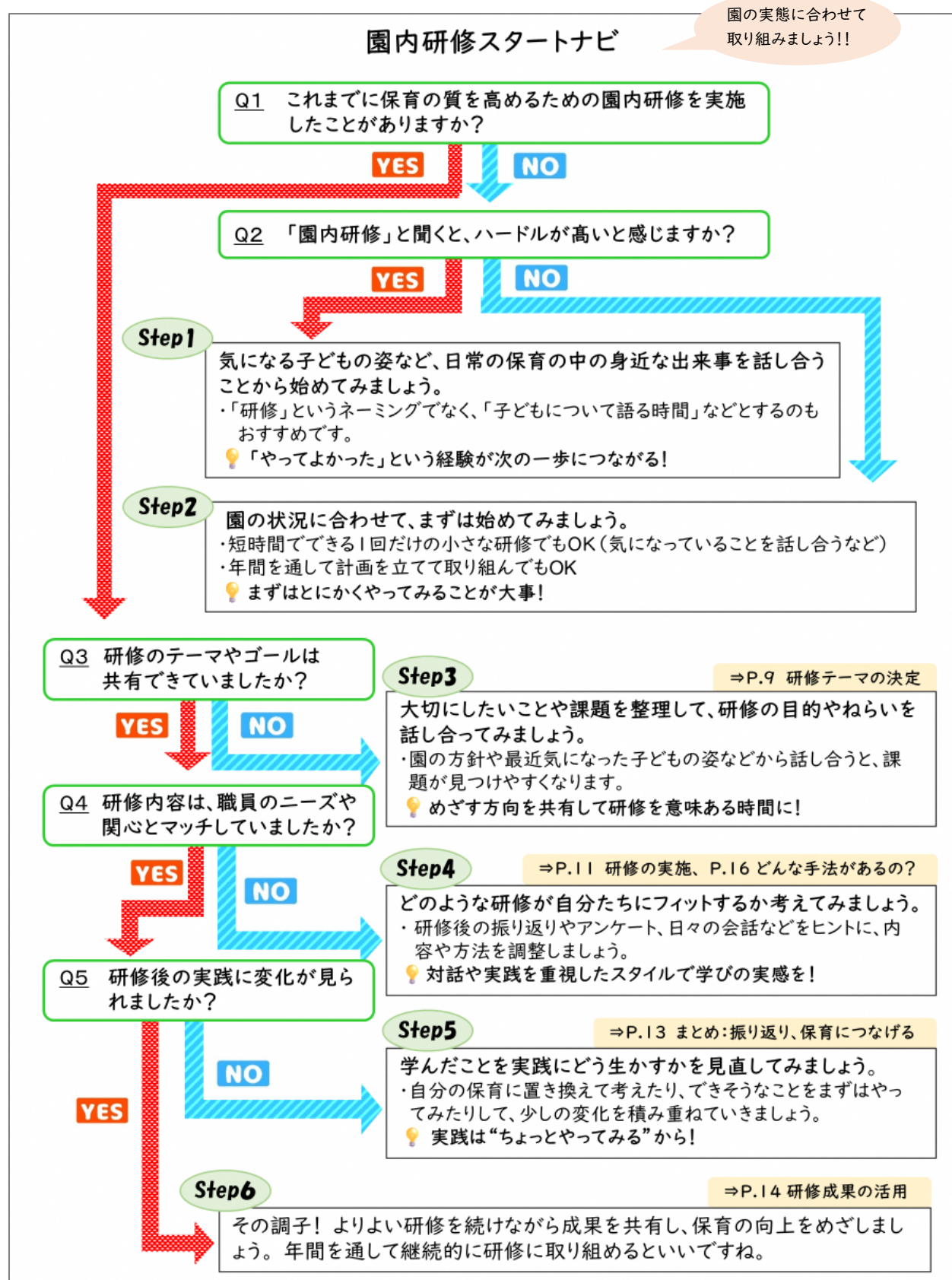


研修の進行役となり、学びを深める要となるのがファシリテーターです。参加者の学びが豊かになり、研修が充実するように、研修の際にはファシリテーターの役割をチェックしてみましょう。

	項 目	チェック
研修前の準備	研修目的・ゴールを明確にしている	
	参加者の背景やニーズを把握している	
	プログラムの流れを整理し、時間配分を確認している	
	必要な資料・備品を準備している	
	会場の環境（座席配置、音響、照明）を整えている	
研修開始時	参加者が安心できる雰囲気をつくっている（アイスブレイクなど）	
	研修の目的・進め方をわかりやすく説明している	
	ルールや約束事を共有している	
研修中の参加者へのサポート	発言が偏らないようにバランスを取っている	
	参加者の意見を尊重し、要点を整理して共有している	
	時間管理を意識し、予定通り進めている	
	必要に応じて問いかけや補足説明を行っている	
	グループワークやディスカッションを円滑に進めている	
	発言が難しい人にも声をかけている	
	誤解や混乱があれば丁寧に整理している	
	参加者同士の対話を促している	
	学びと実践を結びつけられるように促している	
研修終了時	研修内容を振り返り、学びを整理している	
	今後の実践につながるポイントを確認している	
	参加者からの感想やフィードバックを受け取っている	
	次回に向けた改善点を記録している	
ファシリテーター自身の振り返り	自分の進行の良かった点・改善点を振り返っている	
	参加者の反応や成果を分析している	
	次回の研修に生かす工夫を考えている	

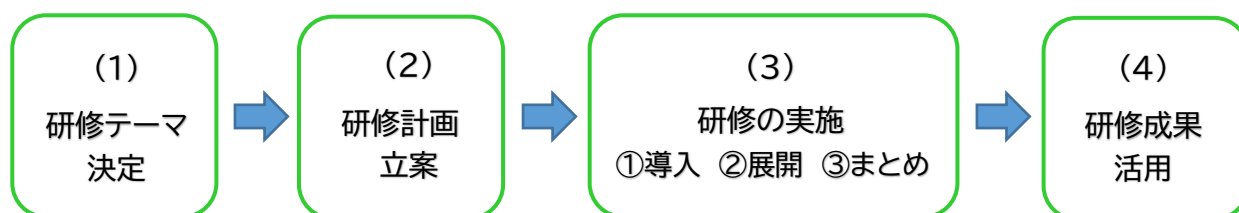
3 どうやって研修を進めるの？

自園の園内研修の実施状況に応じて取り組みましょう。初めから完璧にしようと思わず、できるところからやってみることがコツです。研修経験が少ない場合は、短い時間で子どもの姿を話してみるなど、一緒に話し合うことの意義や楽しさを実感できることから始めるのもよいでしょう。



園内研修の流れ

園内研修は、次の4つの手順で進めていきます。年間を見通して計画・立案し、進めていくのが理想的ですが、慣れないうちは、まずは一回の園内研修を企画して実施するところから始めてみましょう。その際の研修テーマ（話し合うこと）は、多くの職員が保育の中で困っていることや意見を聞いてみたいと思っていることなど、身近で保育に直結する内容がよいでしょう。



(1) 研修テーマの決定

* 年間研修テーマでも1回の研修テーマでも OK

今の園や自分たちに必要な「問い」が研修テーマです。子どもの育ちを支えるために、園として向き合いたい課題や願いと職員個人の課題とを絡み合わせて、取り組みたい課題を具体的に言語化しましょう。

テーマ設定のポイントは、職員全員に「必要感」があること。「自分にとって必要だ」と感じると主体的に取り組むことができ、研修の質が高まります。

テーマ設定にあたっては、まず園の実態や特性を整理して、大切にしたいことや課題は何かを考えることから始めるとよいでしょう。「こんなテーマで話したい。」「こんなことをやってみたい。」といった職員の意見を出し合い、全員で一緒にテーマを決めていきましょう。

【例】 園内研修テーマ検討シート(P.41参照)

園目標	のびやかに自己を発揮し、仲間とともに育ち合う子どもの育成 めざす子ども像 ○笑顔あふれる、元気な子ども ○自分で考え、やり抜く子ども ○思いやりのある、優しい子ども	
研修テーマ	自分の園の実態や特色を整理して、研修テーマを設定する。 「子どもの“やってみたい”を育む保育とは」 ～ 好奇心と探究心を支える関わりを考える ～	
キーワード	よい点だと思うこと	課題だと思うこと
① 子どもの実態	・何事にも意欲的に取り組む ・物事への興味・関心が強い ・友達と遊ぶことが好き ・誘い合って遊び、仲がよい	・すぐやってみるが、長続きしない ・粘り強さにやや欠ける ・何でも言い合うので、ぶつかり合いもよくある
② 遊びの様子	・自然と関わってよく遊ぶ ・アイデアをよく出し、工夫する ・思いついたらやってみる ・友達と相談し、聞いたり教えた	・いろいろなものを出したり持ち込んだりして遊び、広がりすぎて收拾がつかなくなることもある

略

(2) 研修計画の立案

* 年間の研修計画でも1回の研修計画でも OK

研修テーマが決まったら、それを実現するための具体的な研修内容や方法を考え、計画を作成しましょう。年間計画を作成する場合は、各回の内容を点と捉え、それを線でつないでいくことで年間テーマに迫っていくと考えるとよいでしょう。計画の作成は、管理職や主任、ミドルリーダーを中心に進めましょう。

計画はあくまでも予定であり、縛られ過ぎずに柔軟に進めることが大切ですが、無理なくできそうなことをしっかり計画しておくことも重要です。また、全員参加の研修が望ましいですが、園の実情を考慮して、まずは可能な時間帯、人数で実現可能な計画を立ててみましょう。

- ・いつ(月日)、何を(内容)、どのように(方法)実施するかを具体的に計画する。
- ・研修内容に適した研修方法を工夫する(第2章参照)。
- ・主な担当者やファシリテーターなどの役割分担や、準備物(写真・事例・保育案・模造紙・付箋など)も事前に考えておく。

【例】園内研修計画表：年間テーマ「子どもの育ちを支える幼児理解と実践」

月 日	研 修 内 容	研修方法	ファシリテーター 担当者	時間	備 考
4月〇日	園の理念と年間テーマを共有し、子ども理解の基本的な視点を確認する	講義 グループ対話	園長 主任	60分	年度スタート 研修
5月〇日	年齢ごとの発達の特長や育ちの個性を理解する	ラベルワーク	主任 中堅職員	60分	発達表 付箋・模造紙
6月〇日	子どもの行動や言葉を手がかりに保育を振り返る	ワークショップ 記録共有	ファシリテーター は持ち回り	60分	保育記録活用
7月〇日	遊びを通して育まれる力を理解し、1学期の環境や関わりを見直す	フォトラーニング グループワーク	有志チーム	30分	保育室の環境 写真持参
8月〇日	発達や個性に応じた関わり方を考える	エピソード検討 意見交換	外部講師 有志	90分	保育記録活用
9月〇日	子どもの育ちを記録し、保育の振り返りに生かす方法を学ぶ	記録共有 ワーク	主任 中堅職員	60分	記録フォーマットの見直し

略

【各回の研修内容例】

- ・発達に応じた環境構成
- ・子どもにふさわしい行事
- ・自然を生かした遊び
- ・指導計画の見直し
- ・気になる子どもの理解と対応
- ・一人ひとりのよさを伸ばす援助
- ・保育記録の書き方と活用
- ・チーム保育の進め方
- ・保護者との信頼関係づくり
- ・子どもの育ちを促す保護者支援
- ・小学校とのなめらかな接続
- ・地域と連携した保育 等

(3) 研修の実施

*ここでは、話し合いを中心とした参加型研修の進め方を示しています。

① 導入：見通しをもち、つながる

研修に見通しがもてるように、目的や進め方、約束事などを共有します。参加者全員が「みんなで学びの時間をつくる」という意識をもって積極的に研修に臨めるようにしましょう。

◆ 準備と場づくり

顔が見える円形やグループ配置など話しやすい形に座席を整えましょう。
アイスブレイクやちょっとした雑談を交えて、緊張をほぐします。



◆ 目的の共有

研修のはじめに、「今日のテーマ」や「この時間に考えたいこと」を確認しましょう。
目的を明確にすることで、話し合いの方向が定まり、参加しやすくなります。

◆ 役割分担の確認

進行役・記録係・タイムキーパーなどを決めておくと、話し合いがスムーズに進みます。

◆ ルール(安心の約束)の共有

誰もが安心して話せるように、みんなで守りたい基本的なルールを確認しておきましょう。
掲示や回覧で共有し、誰もが視覚的に確認できるようにすると、安心感が高まります。

〈ルールの例〉

- ♥ 時間を守る 開始・終了を明確にし、集中できるようにします。
「あと〇分です」と声を掛け合うなど、時間の共有も効果的。
- ♥ 話し合いのマナー 対話を豊かにするためのルールを共有します。
否定しない ・ 一人で話しすぎない ・ 最後まで聞く など。
- ♥ 話し合いの目的を忘れない

安心して話せる雰囲気づくり

安心感は学びの土台。「話しやすい」「受け止めてもらえる」「自分もこの場に必要存在だと感じられる」——そんな空気の中でこそ対話が生まれ、学びが深まります。

話しやすい雰囲気は、誰かがつくるものではなく、みんなで育てるもの。小さな心がけを大切にしましょう。

【態度・関わり方】

- ・うなずき
- ・相槌
- ・傾聴

【表情・視線】

- ・笑顔で
- ・アイコンタクト

【言葉使い・口調】

- ・柔らかく
- ・丁寧に
- ・肯定的に



② 展開：ともに考え、探る

保育者同士が語り合い、気づきを共有しながら保育を見つめ、学びを深めていく時間です。正解を見つけることよりも、「こんなふう感じた!」「この場面はどう考えたらいいの?」といった気づきや問いを大切にします。自分の考えを言葉にすることで、他の人の視点にも気づき、学びの広がりと深まりへとつながっていきます。

◆ 主体的に取り組める資料や方法を取り入れる

事例や写真、動画などを活用したり、マインドマップ、ラベルワークなどの方法を取り入れたりと、参加者がより主体的に取り組める工夫をしましょう(第2章で紹介)。

◆ ファシリテーターの支えのもと全員が積極的に参加する

ファシリテーター(P.6 参照)は、安心して話せる雰囲気を整えたり、問いかけを工夫したりしながら、参加者同士の対話を促します。流れを整理しながら学び合いを深める役割を担います。

参加者は、ファシリテーター任せにするのではなく、「自分がこの場をつくる」という意識をもつことが大切です。「自分の言葉で語る」「他者の言葉に耳を傾ける」ことを大切にしながら主体的にかかわり、学びの時間を豊かにしましょう。

進行と参加のポイント

項 目	ファシリテーター	参 加 者
役 割	・話合いの流れと深まりを支える	・話合いに積極的に関わり、場をつくる
ポイント	・時間配分を整える ・問いかけで考えを引き出す ・意見の違いを受け止め、橋渡しする	・率直に語る(感じたこと・迷いなど) ・遮らずに最後まで共感的に聴く ・違いを受け止め、やり取りにつなげる
留意点	・話がそれたらゆるやかに軌道修正 ・発言の偏りに配慮し、誰もが安心して話せるようにする	・うまく言えなくても言葉にしようとする姿勢が大切 ・評価せずに聴くことで信頼が生まれる

◆ 話合いを「可視化」する

話合いの内容や気づきを見える形にすることで、理解が深まり、共有もしやすくなります。話合いの流れを整理する、参加者の主体性を引き出す、振り返りや共有を促すなどの目的に応じて、可視化のツールを活用しましょう。

♥ ホワイトボードや模造紙への記録

→ 話合いの要点や流れをその場で整理・共有する。

♥ 付箋の活用

→ 個々の意見や気づきを書き出し、分類・並べ替え・グループ化などする。

♥ ワークシート・記入シートの活用

→ 個人やグループで考えを整理し、その後共有する。



③ まとめ：振り返り、保育につなげる

研修の最後には、参加者がその日の学びを自分の言葉で整理し、明日からの保育を意識して振り返る時間を設けましょう。こうした振り返りの積み重ねが、保育者一人ひとりの実践を支え、園全体の保育の質を高める土台になります。学びを「自分ごと」として受け止め、日々の保育にどう生かすか意識することを習慣付けることが大切です。

◆ 自分の言葉で、視点をもって振り返る

「今日の気付きや学び」「心に残ったこと」「明日からやってみたいこと」などを、自分の言葉で具体的に振り返りましょう。例えば、「子どもや保護者との関わりにどう生かせるか」といった実践につながる視点をもって振り返ることで、学びが自分の中にしっかりと根付きます。

また、「なぜそう感じたのか。」「この気付きはどのような背景から生まれたのか。」などを意識して振り返ると、自分の保育観や子ども観を見つめ直すきっかけになります。

〈振り返りの視点〉

- ♥ 今日の気付きや学び
- ♥ 心に残ったこと（言葉や場面）
- ♥ 明日からやってみたいこと
- ♥ その気付きの「なぜ？」（背景や理由に目を向ける）



◆ 記録に残し、見直す

「振り返りシート」や「気付きカード」などを活用して、振り返りの内容を記録に残すようにしましょう。書いた記録を後から読み返すことで、学びが定着します。

また、定期的に記録を見直し、振り返る時間を設けると、研修が単発で終わらず、継続的な学びとして積み重ねていく仕組みができ、保育者自身の成長の軌跡が見えてきます。

〈記録と見直しの工夫〉

- ♥ 「振り返りシート」や「気付きカード」などを活用する
- ♥ 自分の言葉で具体的に書く
- ♥ 小さな変化や気付きも書き留めておく
- ♥ 定期的に記録を見直す時間を設定する



◆ 全体で共有して、学びを広げる

振り返りの内容は、模造紙にまとめて掲示したり、回覧したりして、職員間の共有を図るようにしましょう。他の職員の気付きに触れることで視点が広がり、自分の保育にも新たな気付きが生まれます。職員間の学びの循環を生み出して、チーム全体の保育を豊かにしましょう。

〈共有のアイデア〉

- ♥ 「振り返りシート」をファイルにして回覧
- ♥ 「気付きカード」を模造紙に貼って職員室に掲示
- ♥ 月1回のミニ共有会で振り返りを紹介
- ♥ テーマ別に振り返りをまとめてファイリング



(4) 研修成果の活用

研修はその場で終わるものではなく、日々の保育や園の取組に生かされてこそ、意味あるものとなります。「研修のあとに何が起こったか（何をしたか）」が、次の学びをひらく鍵になります。園全体で学びを深め、実践へとつなげるために、次のような方法を取り入れてみましょう。

1 研修内容・方法を振り返る

研修の進め方や構成、問いかけの仕方などについて、進行側、参加者側の双方の視点から振り返りましょう。内容だけでなく、「どのような雰囲気だったか」「参加しやすかったか」といった体験面も振り返ることで、次回の研修づくりに生かします。振り返りの内容は記録に残し、職員間で共有します。こうした振り返りが、次回以降の研修の改善にもつながります。

2 研修の成果を実践に生かす

研修で得た気づきや意見を、自分の日々の保育に引き寄せて考え、できそうなことから試してみましょう。言葉のかけ方、環境構成の工夫、保護者へのかかわり方、職員間の対話内容など、日々の保育で生まれる小さな変化を見逃さず、園の学びの芽として大切にしましょう。こうした変化を認め合い、共有する場を設けることで、園全体の学びが広がります。

3 園のしくみへ反映する

研修で得た知見や気づきを園の計画やしくみに反映させることで、一人ひとりの実践の変容にとどまらず、園全体の成長へとつなげることができます。園の方針や取組に学んだことを組み込み、園全体で実践を高めていくようにしましょう。

〈反映の例〉

- ♥ カリキュラムや指導計画の見直し
- ♥ 子どもの育ちに応じた行事のあり方の再考
- ♥ ミーティングや保育記録、ドキュメンテーションなどの視点に活用
- ♥ 園だよりや保護者会での共有

4 継続的な学びの場をつくる

研修を一度きりで終わらせず継続的な対話や振り返りの場を設けることで学びが深まります。また、園内での継続的な取組に加えて、外部の視点や他園との交流を取り入れると、新たな気づきや広がりが生まれます。

〈継続の工夫例〉

- ♥ 日々のミーティングで気づきや学びを共有
- ♥ 振り返り掲示板（気づき等を貼る掲示板）の設置
- ♥ やってみたいノート（実践してみたことを自由に書き込めるノート）の回覧
- ♥ 写真と短いコメントで子どもの姿や環境の工夫を共有



〈外部を取り入れる工夫例〉

- ♥ 外部講師を招いての研修や座談会
- ♥ 他園の公開保育や実践報告会への参加
- ♥ 地域の研修・講座情報を見える化
- ♥ 他園や地域と実践記録や振り返りを共有

Column

～小学校とのつながりを学ぼう～

保幼小のつながりや子どもの育ちについて研修する際には、本センターが発行している資料が活用できます。

【参考資料】



＜第一弾＞「つながる子どもの育ちと学び はじめてのいっぽ」
～保幼小連携、ここから始めよう～

保幼小連携を進めるための第一歩を分かりやすく示したリーフレットです。



本センターも
お手伝いします！

いずれも、各園、小学校に配付済みです。



＜第二弾＞「つながる子どもの育ちと学び はじめてのいっぽ」
もういっぽ ～保幼小連携、これで充実させよう～

リーフレットの詳細版です。

保幼小の進め方をステップ0、1、2、3で示しています。4コマ漫画での連携のポイント紹介や多くの事例により具体的な連携が見えてきます。

二次元コードから
ダウンロード可能!!





やってみよう！ 園内研修



どんな手法があるの？

目的に応じて手法を選ぶ

研修の目的を達成するためには、目的や場面に合った研修手法を効果的に取り入れることも重要です。よく用いられる研修手法には、次のようなものがあります。

研修手法探し方ガイド(研修目的 × 研修手法 × テーマ例のマッチング表)

研修目的	推奨手法(概要)	テーマ例
発想を広げ新たなアイデアを生み出したい	 マインドマップ 中心テーマから関連要素を広げ、思考のつながりを可視化してアイデアを生み出します。	・行事の企画 ・環境構成の見直し ・遊びの展開を考える
捉え方を変えて理解を深めたい	 リフレーミング 出来事や子どもの行動を別の視点で捉え直し、新たな理解や対応の可能性を広げます。	・気になる子どもの理解 ・トラブルの理解と対応 ・保護者への対応
具体的な場面を読み解き気づきを得たい	 フォトラーニング 実践写真などを手がかりに場面を読み解き、対話を通して気づきや意図を共有します。	・着替えや食事の支援 ・友達関係の理解 ・環境構成の工夫
意見を整理し共通理解を得たい	 ラベルワーク 付箋に短い言葉を書き出し、可視化により意見を整理して共通理解を促します。	・めざす子どもの姿の共有 ・保護者対応のポイント ・遊びを深める環境構成
短時間で振り返り次の目標を決めたい	 KPT 法 Keep・Problem・Try を整理し、振り返りから次に取り組む目標を明確にします。	・行事後の振り返り ・月案の見直し ・チーム保育の改善
事例を基に話し合い理解を深めたい	 エピソード検討 実践事例を丁寧に読み解き、対話を通して子どもの育ちや支援の方向などを検討します。	・子どもの内面の理解 ・環境や援助のあり方 ・発達に応じた支援
保育実践を共有し多様な視点を得たい	 園内公開保育 実践を公開して共有し、観察と対話を通して多様な視点から助言や気づきを得ます。	・保育実践の実際 (園内テーマに応じて)

*各手法の詳しい手順や留意点等は、次頁以降に手法別に掲載しています。

【マークの見方】	   ・・・ファシリテーター(進行役)が心掛けること ・・・時間短縮のヒント ・・・円滑に進めるためのポイント
-----------------	--

2 研修手法例

(1) マインドマップ ～発想を広げ、新たなアイデアを生む～

所要時間 20 分
事前準備 無

キーワードから連想したことを放射線状に書き込み、線でつなぎ、発想を広げながら図式化していきます。頭に浮かんだことを筋道立てて書くことで、思考のつながりを可視化して新たなアイデアを生み出します。また、全体像を共有することにも役立ちます。

人数

2人以上
(1 グループ 2～4人程度)

準備物

・A3用紙または模造紙
・マーカー(多色)

テーマ例

・行事の企画
・環境構成の見直し
・遊びの展開を考える 等

進め方

Step1 5分	○テーマとなるキーワードに沿って個人でマインドマップを作る。 ・思いついたことを連鎖させ放射線状の図式として表していく。
Step2 10分	○全員のアイデアを出し合う。 ・共通のキーワードを用紙の真ん中に記入する。 ・各自のマインドマップを見合い、それを基にグループのマインドマップに広げていく。 ・発想を出し合いながら、共通の言葉をまとめたり、枝分かれの項目をポイントとなる言葉で表現したりする。
Step3 5分	○全体で共有する。 ・まとめたマインドマップから新たな視点の付け加えができないか、全員で考える。 ・出たアイデアを分かりやすく書き込み、全員の共通理解が進むようにする。



枝ごとに色分けをし、系統を意識して発想を広げていきましょう。



それぞれの考えを認め合って進めるようにするとよいですね。
また、ファシリテーターと記入者を分担し、進めていくこともできますね。

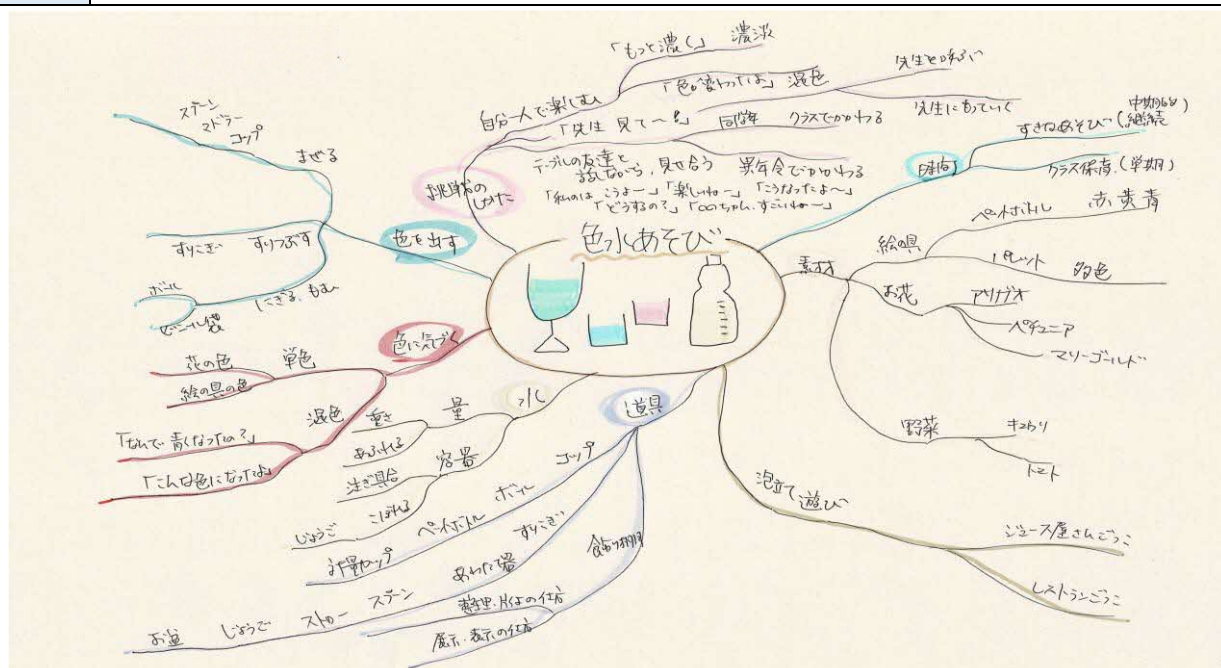


ペンの色を変える、枠で囲むなど視覚的に分かりやすくする方法を工夫しましょう。

アドバイス

- ・右ページの研修例では、2～4 人の小グループでの話し合いを例に挙げてみました。
- ・例のように「色水遊び」と一言で言っても、そこからイメージを広げて考えることは難しいですね。一人ひとりがアイデアを広げ、他者と触れ、刺激し合ったり共通項を探ったりしながら、新たな視点を生み出すことに挑戦していきましょう。

Step1 5分	①導入・問いの提示 ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 ②個人でのマインドマップ作成 ・テーマとなるキーワードに沿って思いついたことを連鎖させ、放射線状の図式として表す。 ・頭に浮かんだことからイメージを広げ、筋道立てて書いていく。 【例】「色水遊び」から、「絵の具・お花」「混ぜる・すりつぶす・もむ」「ジュース屋さんごっこ・混色のおもしろさに気付く」など
Step2 10分	③全員での話し合い ・各自のマインドマップを1つのマインドマップにまとめて表す。 ・共通のキーワードを用紙の真ん中に記入し、共通する筋道をまとめたり、独自のアイデアを加えたりする。 ・各自のマインドマップがもれなく反映されるよう、言葉選びや枝分かれの項目について考えを出し合う。 ・枝分かれの項目をポイントとなる言葉で表現する。 【例】「色を出す手段」「道具」「素材」「準備の方法」「子どもが発見したこと」「遊び方の過程」「遊びの広がり」など
Step3 5分	④まとめと振り返り ・まとめたマインドマップから、例えば、遊び方や準備物、子どもの挑戦する姿など予想されることに更に新たな視点の付け加えができないか、全員で考える。 【例】「作る過程での発見」「泡立て遊びと一緒に」「必要な時間の確保」「異年齢での遊びへ」など ・気づきを出し合って生み出されたアイデアを確認し、新たな環境構成を考える。



(2) リフレーミング ～捉え方を変えて理解を深める～

所要時間 30 分
事前準備 無

出来事や子どもの行動をこれまでの見方や考え方とは異なる「別の枠組み」で捉え直して、考え方や関わりの変化につなげます。単に肯定的に捉えるだけでなく、子どもの行動を「育ちのサイン」として捉え直すことで、子どもや保育者の可能性を広げることができます。

人数

3人以上
(1グループ3～4人程度)

準備物

・リフレーミングシート(P.42～43参照) または記録用紙

テーマ例

・気になる子どもの理解
・トラブルの理解と対応
・保護者への対応 等

進め方

Step1 5分	○「テーマ」に関する出来事について、個人で捉え直す。 *個人用リフレーミングシート(P.42参照)を活用するとよい。 ・事例(誰がどうした) ・自分の反応・感情 ・行動や言葉の背景にある発達の意味・育ちの視点 ・リフレーミング(捉え直し:別の言い方に変換) 例:「取り合い」→「自己主張・交渉の練習」など ・リフレーミングから導いた援助
Step2 20分	○グループで共有する。 ・各自がリフレーミングした内容を共有し、他の捉え方がないかを検討したり、援助を導き出したりする。 *グループ用リフレーミングシート(P.43参照)を活用するとよい。
Step3 5分	○全体で共有する。 ・グループごとにリフレーミングの内容とそこから導き出した援助について報告し合い、共有する。



事前にテーマを提示して、個人用リフレーミングシートを記入しておく、話し合いから始められます。



活用しやすくするために、簡潔に記入しましょう。
・事実是一行で
・自分の反応を一言で
・一文でリフレーミング



子どもの気持ちに寄り添って考えると、育ちの視点が見えやすくなります。



育ちの視点が複数あると効果的です。それぞれの意見を引き出すようにしましょう。



効果を確認し合い、明日からの対応等に生かせるようにまとめましょう。

アドバイス

- ・まずは自分が出会った事例を基に素直に考えて、自分の捉え方の傾向をつかみましょう。
- ・リフレーミングで大切なのは、背景を探るまなざしです。ポジティブに捉えて言い換えることで、育ちに目を向け、「問題」から「可能性」に変わるように意識しましょう。
- ・一人で考えるよりも、他の人の見方に触れ一緒に考えることで、より豊かにリフレーミングができます。グループでの対話を重視して、多様な捉え方や援助を導き出すようにしましょう。
- ・リフレーミングの大切さに気付いたら、日常的に習慣付くように心がけるといいですね。

Step1

5分

①導入・問いの提示

○テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認

○リフレーミングの説明

- ・子どものトラブルと聞いて思い浮かぶことは？（→物の取り合い・叩く・言い合うなど）
- ・トラブルをよくないことではなく、「育ちのチャンス」という見方で、違う角度から捉えてみよう。

②経験したトラブル事例についてリフレーミング（個人用リフレーミングシートに記入）

【例：A先生のリフレーミングシート】

① 事例(短く) 誰がどうした(行動や言葉)	Bくんが友達のおもちゃを取った
② 自分の反応・感情 (チェック+ひとこと)	☐ 困った ☒ 良くないこと ☐ 驚いた ☐ イライラ ☐ 悲しい ☐ その他(また取った) ひとこと(「取ったらダメ」と言った 叱るべきか迷った)
③ 行動や言葉の背景にある発 達の意味・育ちの視点(チェッ クまたは記入)	☒ 自己主張 ☐ 興味・関心 ☐ 感情調整 ☐ 意欲・集中 ☐ 関係づくり ☐ ルール理解 ☐ その他(自己主張の練習・おもちゃが大好き)
④ リフレーミング (捉え直し) 今の言い方⇒言い換え	思い通りにする⇒自分の要求を主張しようとしている 譲れない・我慢できない⇒物への強い気持ちがある
⑤ ④から導いた援助 (かかわり・言葉)	Bくんの気持ちを言葉にする「使いたかったんだよね」 「使いたいことを C くんにお願いしてみようね」

Step2

20 分

③グループ協議・リフレーミング（5分×4人）

- ・各自の事例を紹介し、別の捉え方（リフレーミング）やリフレーミングを生かした援助や言葉がけのアイデアを具体的に話し合う。 *グループ用リフレーミングシートに記入

【例：Dグループのリフレーミングシート】

事 例 (箇条書き)	育ちの視点 (多様な視点で)	リフレーミング 今の言い方⇒言い換え	援助のアイデア (かかわり・言葉)
おもちゃ を 取る	A 自己主張	勝手・思い通りにする ⇒ 思いを行動で表している	ふさわしい行動を示す 「貸してって言おうね」
	B 感情調整	がまんできない・欲張り ⇒ 感情コントロールを学び中	感情を受け止める 落ち着くようにかかわる
	C 物への興味・関心	独り占めして手放さない ⇒ 強い興味・関心がある	使いたい思いを受け止める 満足するまで使えるよう保障

- ・残り1分で、全体に紹介したいグループの事例を1つ決める。

Step3

5分

④全体共有

- ・各グループ1事例ずつ、リフレーミングと援助のアイデアを報告し、全員で共有する。

⑤まとめと振り返り

- ・「トラブル＝問題」という捉えから「成長のきっかけ」へと捉え方が変わったかを確認する。
- ・「育ちの視点」をもつと理解が深まり、援助が導かれることを日常的に意識しよう。
- ・今日考えた援助のアイデアを明日から実践してみよう。

(3) フォトラーニング ～具体的場面を読み解き、気づきを得る～

所要時間 20 分
事前準備 有

保育の写真やビデオから子どもの活動を自分なりに読み取り、参加者同士で互いに意見を交わす手法です。対話から、保育中には見えていなかった子どもの様子や思いが明らかになり、新たな視点や気づきを得ることができます。

人数

3人以上
(1グループ3～4人程度)

準備物

・写真・ビデオ…保育活動や
環境構成の場面
・ワークシート(P.44参照)

テーマ例

・着替えや食事の支援
・友達関係の理解
・環境構成の工夫 等

進め方

Step1 5分	○写真提供者が説明する。 ・なぜその写真(場面)を選んだのか、状況や自身の思い・願い・意図を説明する。	 Point! 時間配分をしながら、一つの話題に関連した発言が繋がっていくとよいですね。
Step2 10分	○グループで話し合う。 ・参加者は、写真を通じて子どもの様子や保育のアプローチ、環境構成などについて意見を出し合う。 ・提供者への質問や投げかけも行う。 ・人数が多いと感じたら、3～4人の小グループに分かれて話し合うことも考える。	 Point! 互いに深い思いへと辿り着けるよう、小グループを活用すると効果的です。
Step3 5分	○全体で共有する。 ・話合いの内容を確認し合い、今後の考え方や援助の方向性を共有する。	 全体共有では意見調整が必要ですね。参加者同士が課題を導き出すきっかけとなるワードやヒントが提供できるようにしましょう。

アドバイス

- ・写真の中に子どもの姿が映し出されていなくても、構成された保育環境の中で、実際に子どもがどのように活動したか、主体的な活動ができたかなど、意見交換をすることができます。
- ・園全体で取り組む場合は、グループの数の写真を準備し、小グループの協議を踏まえて全体で話し合うことができます。

Step 1 5分	①導入・問いの提示 ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 ②写真提供者から写真説明 ・この写真を取り上げた理由やタイトルへの思い、状況などを伝える。 フォトラーニングシート 2025年〇月〇日 記録者(〇〇) ①写真のタイトル あわあわが、できるね！ ②この写真を選んだ理由 A 好きな遊びの時間に年長児、年中児と一緒に泡立て遊びを楽しんでいるところ。できた泡を合体させている瞬間。それぞれの子どもは、どんな思いで遊んでいる？ B 年長児が先生と泡をやり取りしている場面。この先生はどんな気持ちで、どんな援助をしているのだろうか？ この年長児はどういう気持ちなんだろう？ ③「タイトル」「この写真を選んだ理由」「写真の様子」について語り合い、気づきや考え、感じたこと等をメモする 略 A 今は、泡を立てることを楽しんでいる段階。それぞれの子どもはどんな思いで遊んでいるのだろうか？ B 泡立て遊びの経験の少ないこの年長児に対して保育者はどんな気持ちで、今後、どのような援助をしていくのだろうか？ この年長児はどんな気持ちで泡立て遊びをしているのだろうか？
Step 2 15分	③協議 ・子どもの様子や気持ちについて語る。 二人はしし合わせてボールの泡を合体させていますよね。仲よしですよ。 奥の年長児（Bの子ども）は周りの子どもの様子に気付かず、自分の泡づくりに集中している様子です。 赤い帽子の子どもは、二人の様子をじっと見ているね。  「泡を合体させるとそうなるのか〜！」って実感しているの？！ この泡や水の量の感じだったら、ようやく泡立つようになったという段階かな？ この子どもは「もっともっと泡立てたい。」と思っているのではないかな？
Step 3 10分	④全体で共有・まとめ ・意見を共有する。 子どもたちは、粉にした石鹸を泡立て、泡の感触を味わい、泡ができることを喜んでいる。今はこの楽しさを存分に味わってほしい。 泡づくりの経験が、もう少し多い年長女児がつくる、ホイップのようなきめ細かな泡を紹介すると、「あんな泡が作りたい」と、もっと挑戦してみようという気持ちになるのかな？ 子どもたちが泡づくりを進めるうちに、水や石鹸の量のバランス、泡立て器の回し方などに気付くかな？ 気付きに寄り添えるような言葉がけをしたい。 ・フォトラーニングを通しての気づきや考えをまとめる。 保育場面の一瞬を捉え、多角的に子どもや遊びの様子を読み取り、それに伴う保育者の援助のあり方について考える手段として有効である。話し合いがタイムリーにできるとよりよいと感じる。

(4) ラベルワーク ～意見を整理し、共通理解を得る～

所要時間 25 分
事前準備 無

意見や気づきを付箋に書き出し、内容をグループ化してラベルを付けることで、情報を可視化・整理する手法です。付箋に書くことで意見が出しやすく、可視化や共有がしやすいという利点があり、対話を通じて問題の構造を捉えたり、本質に迫ったりすることができます。

人数

4人以上
(1グループ4～6人程度)

準備物

・大きめの付箋(複数色)
・サインペン(複数色)
・模造紙(ホワイトボード)

テーマ例

・めざす子どもの姿の共有
・保護者対応のポイント
・遊びを深める環境構成 等

進め方

Step1 5分	○個人で付箋に記入する。 ・「テーマ」に沿って、自分の意見やアイデアを付箋に書く。 ・アイデアは、付箋1枚につき1つ、具体的かつ簡潔に書き、できるだけ多く出す。
Step2 15分	○グループで話し合う。 ・付箋を見せ合い、背景や意味を共有しながら、模造紙(ホワイトボード)に並べる。 ・意味や内容の似た付箋を集めて並べ替え、小グループ化する。 ・グループ化したものに、まとまりを適切に表現するラベル(一行見出し)を付ける。 ・小グループをさらにまとめて大グループに整理し直し、大グループにもラベル(一行見出し)をつける。
Step3 5分	○全体で共有する。 ・グループごとに表現した内容や気づきを発表して、全体で共有する。



考え過ぎず、思いついたことは書いてみましょう。並べて俯瞰してみたときに、思わぬ発見につながる場合があります。



グループ内の誰か一人がどんどん進めるのではなく、誰もが意見を述べ、相談しながらグループ化やラベル付けができるように配慮しましょう。



ラベルは、グループ化した内容が一目で分かるように要約しましょう。色の異なる付箋やペンを使うと分かりやすいですね。



発表せずに、模造紙を掲示して見合うことで時間短縮できます。

アドバイス

- ・グループ化は、2、3枚で小グループを作ることから始め10個以内のグループになるまで繰り返すとよいでしょう。どのグループにも属さないものは1枚で大丈夫。無理にグループにする必要はありません。
- ・グループ化やラベル付けでは、思い込みや先入観をなくし、メンバーと話し合い、確認し合いながら丁寧に作業を進めていきましょう。対話を促進することが発見や気づきにつながります。ラベル同士のつながりや順序、因果関係などまで探っていくと、さらに問題の構造や本質に迫ることもできます。

Step1 5分	①導入・問いの提示 ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 ②個人で付箋に考えを記入 ・「子どもの主体的な遊びを育むには」どんなことが大切だと思うか、付箋1枚につき1つずつ、思いついた自分の意見や考えを記入する。 ・できるだけ多くの考えを出す。要点が分かるよう箇条書きで大きく書く。
Step2 15分	③グループ協議 対話しながら付箋の内容をグループ化し、ラベル付けをする。 ○グループ化(仲間分け) ・自分の付箋を示しながら考えを説明し、模造紙に貼っていく。 ・同じような意見を近くに貼ったり、貼り替えたりしながら意味のまとまりを探す。 ○ラベル付け ・グループ化してまとめたものにラベル(小見出し)を付ける。 ・さらに大きくグループ化してラベル付けをする。 【個人意見の例(付箋)】 ・自由に使える遊具がある ・口を出しすぎない ・子ども同士で関われる空間がある ・「ダメ」を言い過ぎない ・遊びの途中で止めない ・子どもの発見を面白がる ・年齢の違う子どもと遊べる場がある ・大人も一緒に楽しむ ・自分の思いや考えがある ・自分の思いが言える ・考えたことを試す場がある ・予定に余白がある ・「やってみよう」を尊重する ・子どものつぶやきを大事にする ・失敗してもやり直せる雰囲気がある ・「やってみよう」と背中を押す ・異年齢でかわり、刺激し合える場 ・ルールや規制を最小限にする ・次の日もできる ・繰り返しできる 【グループ化とラベル付けの例】 グループ化 自由に使え遊具 考えたことを試す場 次の日もできる 子ども同士の関わり 年齢の違う子と遊べる 遊びの途中で止めない 予定に余白がある 「ダメ」を言い過ぎない 「やってみよう?」 発見を面白がる 大人も一緒に楽しむ 「やってみよう」を尊重 口を出しすぎない ルールや規制を最小限に 失敗してもやり直せる 繰り返しできる 小ラベル 選ぶ・試す 繰り返す環境 人と出会う 空間 時間の確保 緩やかな流れ 言葉がけ 認める 子ども目線 思いを大切に する 挑戦できる 大ラベル 探究的な環境 時間と空間の確保 肯定的な大人のまなざしや関わり 子どもの思いの尊重
Step3 5分	④全体共有 ・グループごとにラベルと内容、気づきを発表する。 ⑤まとめと振り返り ・「主体的な遊び」が生まれる条件についてまとめる。 ・気づきをもとに、現場でできることを考える。 (明日からできること、まず変えてみたいことを一人1つ書き出すなど。)

(5) KPT 法 ～短時間で振り返り、次の目標を決める～

所要時間 30 分
事前準備 無

「Keep (続けたいこと)」と「Problem (課題)」を整理することで、短時間で効率的に振り返り、それを踏まえて次回以降に「Try (試したいこと)」を決めていく、簡単なフレームワークです。よいところを継続しながら改善策や課題解決に向かうことができます。

人数

3人以上
(1グループ3～5人程度)

準備物

・付箋3色(一人各3～5枚)
・模造紙またはホワイトボード
・マーカー

テーマ例

・行事後の振り返り
・月案の見直し
・チーム保育の改善 等

進め方

Step1 5分	○個人で振り返る。 ・「テーマ」について、K(続けたいこと・達成できたこと)とP(課題・悩み)を個人で簡潔に付箋に記入する。 (付箋1枚に内容は1つ) K ・続けたいこと ・達成できたこと P ・課題 ・悩み
Step2 10分	○グループで話し合い、共有する。 ・それぞれが記入したK(続けたいこと)とP(課題)の付箋を、背景も説明しながら、模造紙(ホワイトボード)に貼っていく。 ・似た内容は近くにまとめて貼り、分かりやすくKとPを整理して共有する。
Step3 15分	OKとPを基に、T(試したいこと・目標)を個人で記入する。 ○グループでTを共有し、皆で取り組むことを話し合う。 ・各自のTを発表しながら付箋を貼っていく。 T ・試したいこと ・目標 ・Tをグルーピングし、皆で取り組みたいことを決め、優先順位を付ける。 (個人での振り返りの場合は、個人で優先順位を付ける) ○全体で共有する。



書くことに注力しすぎないように、様子を見て切り上げましょう。



KとPを先に書くことで、目標が定まりやすくなります。付箋の色を変えて、分かりやすくしましょう。



一人1枚ずつ順番に貼ったり、似た内容がある人が次に話したりして、偏りなく皆が話せるようにしましょう。



KとPを付箋に記入し、関係する場所に貼るところまでを事前にやっておくと、貼ったものを見合って協議するところから始められ、時間短縮できます。



目標に優先順位を付けることで、まずは一歩を踏み出せるようにしましょう。

アドバイス

- ・目標は、できるだけ「ぐたいてきに」書くように心がけましょう。
- ・決まった目標は、いつも見える場所に貼る(置く)と達成しやすくなります。
- ・目標の数は、大きな目標なら1つ、小さな目標ならいくつあっても構いません。小さな目標の「できた!」を積み重ねながら、大きな目標に向かって取り組みましょう。

ぐ…具体的に書く
た…達成可能なことを書く
い…意欲が持てることを書く
て…定量化する(週1回など)
き…期日を決める
に…日課にする

Step1 5分	①導入・問いの提示 ○テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 ②個人で Keep と Problem を付箋に記入（それぞれ3～5枚程度） ・Keep（続けたいこと）：うまくいったこと、今後も続けたい取組（ピンクの付箋） ・Problem（課題）：困ったこと、うまくいかなかったこと（黄色の付箋） ・付箋1枚に1つずつ記入する。 ・要点が一目で分かるように箇条書きで大きく書く。
Step2 10分	③グループ協議 ・それぞれが順番に、記入した付箋の内容について説明しながら模造紙に貼っていく。 ・思いや背景を説明し合うことで、理解を深めたりポイントを確認したりしながら進める。 ・似た内容は近くにまとめ、Keep（続けたいこと）と Problem（課題）を共有・整理する。 Keep の例 ・子どもたちが親しんでいる演目を選んだ ・自分たちで必要な道具を考えてつくった ・子どもがアイデアを出し合っていた ・友達の工夫や頑張りを認め合っていた ・その子らしく表現して楽しんでいた ・衣装づくりを保護者と一緒に行った Problem の例 ・一部の子どもにはセリフが難しかった ・舞台上立つことが不安な子どもがいた ・当日音響トラブルがあった ・リハーサルの時間が足りなかった ・長時間の練習で集中が切れていた ・保護者がその子らしい表現を理解する必要がある
Step3 15分	④協議を基に個人で Try を考え、付箋に記入 ・Try（試したいこと）：改善案、新しく挑戦したいこと（緑の付箋） ⑤グループ協議 ・個々のTry案をグループで共有し、次に生かすアクション（Try）を話し合う。 Try の例 ・お話に親しむように毎日読み聞かせをする ・子どもと一緒に言いやすいセリフを考える ・セリフ以外の表現方法を工夫する（動き・ダンス・歌） ・歌やダンスを日頃から楽しむ ・安心できるように、事前に舞台に慣れる時間を増やす ・一回の練習時間は時間を短くして回数を増やす ・保護者に日頃の楽しんでいる姿を伝える ⑥全体共有とまとめ ・皆で取り組む改善策ややってみたいことを決める。 ・次回から挑戦できることを共有し、優先順位をつけて着実に実施できるようにする。 【決定したTryの例】 ①毎日お話や歌に親しむ ②日頃から保護者に子どもの様子を伝える ③子どもの思いを聞いて子どもと一緒に日々の活動を進める

(6) エピソード検討 ～事例を基に話し合い、理解を深める～

所要時間 30 分
事前準備 有

日常の出来事（印象的な場面・困りごとなど）の記録を持ち寄り、子どもの思いや行動の意味などを対話的に話し合うことで、実践的な気づきを引き出します。個々の気づきとともに保育者同士の保育観の共有や相互理解などが期待できます。

人数

3人以上
（1グループ3～5人程度）

準備物

・エピソード記録（心に残った場面や出来事の記録・取り上げた背景もあるとよい）

テーマ例

・子どもの内面の理解
・環境や援助のあり方
・発達に応じた支援 等

進め方

事前に	○エピソード記録提供者は事前に記録を配付し、参加者は一読しておく。＊エピソード記録シート（P. 45）を活用しても可【エピソード記録の内容例】 ・幼児の活動（いつ、どこで、誰が、どうした） ・保育者の援助 ・気づき ・考察 ・環境構成
Step1 5分	○エピソード記録を共有し、個人で読み取る。 ・全員（または各自）で記録を読む。（気になった言葉や行動、保育者の対応、問いなど） ・記録提供者は、自身の思いや問いかけたいことなどを話す。
Step2 20分	○話し合う。（全員またはグループで） ・参加者は、提供者への質問と併せて子どもの姿や思い、保育者の援助、環境構成などについて、自身の考えを語る。 ・他者の意見を聞いて、深めたり、新たな考えを述べたりする。 ・話題が重なる部分などからキーワードやポイントとなる点を集約し、めざす方向性を共通理解していく。
Step3 5分	○気づきの共有とまとめ ・グループごとに気づきを発表して、全体で共有する。 ・明日からの保育に生かせることを確認する。



早めに記録を配付し、事前に読み込んで、個々の気づきや思いなどをまとめておくと、時間短縮になり、話し合いも深まります。



記録提供者の思いや問いを共有しながら、子どもの気持ちや考えなどを発達や背景、関係性から自分なりに読み解いてみましょう。



誰でも話せる雰囲気をつくりましょう。様子を見て、話し合いの糸口となる「問い」を投げかけるのもいいですね。



少数意見や着眼点がユニークな意見も大切にして、多様な考えを引き出すようにしましょう。



多面的な考えに触れ、気づきを得られたという実感がもてるといいですね。

アドバイス

- ・エピソード記録の中の子どもの姿や保育者の援助、環境構成について提供者が語り、参加者が自分ごととして追体験することで、共通の保育場面について協議が深まります。
- ・対話中心となるため、ファシリテーターの役割が非常に重要です。どんな気持ちや考えも表してよいという安心感の下で話し合えると幅広い考えや深い理解につながります。
- ・交代でエピソード記録を持ち寄り、検討を繰り返すことで、継続的な学びにつなげていきましょう。

Step1

5分

①導入・問いの提示

- ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認
- ・積極的に多様な意見を出し合い、認め合うことが重要であることを確認する。

②エピソード記録の共有

- ・エピソード記録を読み、自分の気づきや思いをメモする。
- ・エピソード提供者は、記録をもとに自身の思いや問いかけたいことなどを話す。

【4歳児 事例】 5月31日・6月9日 「チョウを捕まえない」

（背景）虫好きなユウたち男児数人は、4月はダンゴムシ探しに夢中だった。5月になるとモンシロチョウが羽化したので、誘い合って探したり捕まえたりする日々が続いていた。5月28日、ユウがウサギ小屋周辺でチョウを見つける。年長がウサギの世話をした後で、地面の水たまりにチョウが止まっていたので、保育者が「チョウがお水飲みに来たね。」と言うと、「えっ、お水飲むん？」とユウ。「そうなんよ、チョウってよく水がある所に来るんだよね。」と保育者が言うのと、ユウは「へえ。」と感心していた。

5月31日、ユウたち5人はチョウを探しながら園内を回っている。大庭から裏庭へ回り、さらに池まで行ったところで、ユウが「先生、池の水出して。チョウは水が好きだから来るはず。」と言う。保育者が水を出すと、ユウたちは水を触ったり池の周りを回ったりしてチョウを待つ。チョウが来ないので、「来ないじゃん。」「裏庭がいいんじゃない？」などと話している。「人がいない静かな所に来るかも。」と保育者が言うのと、ちょうど誰もいない少し離れた所にチョウが見え、5人は走り寄って網で捕まえる。

6月9日、ユウたち3人は園庭でチョウを探している。保育者が行くと、ユウがすぐに「先生水撒いて。あそこにホースがあるから。」と言う。保育者がホースを出してユウに渡し、ユウが辺りに水を撒く。しばらく待っているがチョウは来ない。アキトが「あっちにはチョウはおらん。」

略



Step2

20分

③話し合い（グループ）

- ・子どもの姿や思い、保育者の援助、環境構成などについて、自分の考えを語り合う。
- ・話題が重なる部分などからキーワードやポイントを集約したり、方向性を共通理解したりする。

例	子どもの姿	子どもは何をを考えていた？	水を撒けばチョウが来ると予想していた。
		どんな試行錯誤があった？	池の水を出す、場所を変える、水を撒く、待つ
		友達とのやりとりから見えることは？	経験をもとに話したり、友達の意見を聞いて考え直したりしていた。
	保育者の援助	どんな言葉かけや関わりが、子どもの思考を支えていた？	「チョウが水を飲みに来た。」という言葉が、その後のユウの考えのきっかけになっていた。子どもの発言を受け止めて応じたり、一緒に考えたりすることで、考え直す機会をつくっていた。「人がいない静かな所に来るかも。」の言葉が環境への気づきを促し、観察の視点を広げていた。
		他にどんな関わり方がある？	「どうしてかなあ」と投げかける。
	環境の役割	どんな環境が子どもの思考を引き出していた？	水たまりや池、ホースなど、自然や身近な環境が子どもの探究心を刺激していた。
		今後考えられる環境構成は？	園内を自由に移動できる環境が、探索や比較の機会を広げる。

Step3

5分

④全体共有とまとめ

- ・グループごとに話し合ったことを発表し、全体で共有する。
- ・明日からの保育に生かせることを確認する。

- 例
- ・子どもは、経験したことや他の人の言葉をもとに自分なりに考えたり試したりする。
 - ・子どもの「なぜ？」「どうして？」を大切に、試行錯誤できる環境と関わりを意識する。

(7) 園内公開保育 ～保育実践を共有し、多様な視点を得る～

所要時間 90 分程度
事前準備 有

保育活動を多くの職員で参観し、その後、互いに意見を交わし合い、多様な意見を共有します。具体的な場面を通して話し合うことで、環境構成や援助のあり方などを考え、深めることができます。

人数

園内の職員数
(1グループ3～4人程度)

準備物

・保育案
・メモ帳またはノート
・振り返りのシートなど

テーマ例

・保育実践の実際
(園内テーマに応じて)
＜例＞季節の遊び
行事に向かう活動 等

進め方

事前に	○園内公開保育提供者は、事前に保育案を配付し、参加者は一読する。
Step1 40～ 50分	○保育を参観する。 ・子どもの活動に支障がないよう、姿勢を低くして参観する。出入口や廊下等での子どもの往来に差し支えないよう留意する。 ・保育案をもとに、子どもや保育者の様子、環境構成、自身の気付きなどをメモしながら参観する。 ・時間の全てを参観できない場合は、参観した時間を明確に記入し、子どもや保育者の様子を記録する。 ○保育提供者は、子どもたちがいつもの様子で活動できるように表情や言葉使いを柔らかく保つ。 ・保育補助者とは連携を密にして、その都度、情報共有しながら活動する。
Step2 20～ 35分	○研究協議をする。 ・保育提供者が自評を語る。保育の意図、ねらいに対して保育活動がどう進んだのか、子どもたちの様子はどうだったか、自身の援助や環境構成は適切だったか等を話し合う。 ・質疑応答後に、事前の協議ポイントに沿った話し合いを行い、参加者は率直に意見や感想を出し合う。
Step3 5分	○全体で共有する。 ・話し合いの内容を確認し、今後の環境構成や援助の方向性を共有する。



保育参観の視点や協議ポイントを事前に示しておく、よりスムーズな協議になりますね。



事前に自身の疑問点や共通点をメモするなどしておくといいですね。



子どもたちが普段通りの流れで活動できるように、参観の仕方にも配慮しましょう。



参加者が多数の場合は互いに気付きや考えを出し合えるよう、小人数での協議を取り入れられるといいですね。



多数の意見を共有し、方向付けながら、少数意見や新鮮な着眼点の意見が埋もれないように留意しましょう。



時間配分をしながら、一つの話題に関連した発言が繋がっていくといいですね。

Step1 60分	①保育参観 ・保育のねらいや課題(異年齢保育の進め方や環境構成)などを明確にして参加し、それらの視点から子どもや保育者の様子、環境構成についてなどを具体的に記録する。 「遊びながら工夫する」ことは難しいと感じたが、保育者の「鬼が一匹しかいないよ。どうする？」の声に、子どもたちは鬼の絵を描いて的に貼っていた。製作したり遊んで試したりできる環境構成が大事だと思った。 ・保育案や実際の保育活動についての疑問や不明な点、保育者に尋ねたいポイントなどを整理しておく。 3～5 歳児の縦割りグループで、それぞれのあて、玉入れ、ボーリングとゲームが決まっていたが、どのように決めたのか？  
Step2 25分	②導入・問いの提示 ・テーマの共有、ねらいの説明、進め方の確認 ③協議 ・保育提供者の自評を聞き、参加者の質問や感想、見取ったことを話し合う。  <自評> 子どもたちから出た「みんなでいっぱい投げて当てたい」「一人でも投げたい」という2つの希望を叶えるために、投げ方を考え、「どうしたら的に当たるか」を話し合う時間が長すぎて活動が少なくなったことが反省点。  <自評> 「こうしたい」という思いを言いながら遊んでいる子どもが多かったが年少児や年中児の中には自分の思いを言葉に出すことが難しい子どももいる。そういう子どもにもっとフォローが必要だったと思う。  子どもたちに考える力が育っている。ルールを守っていないなどのトラブルが起きたとき、みんなで考える様子が見受けられた。縦割りグループのよさを実感した。  なかよしタイムが定着し、子どもの姿がよく見えるようになっている。肯定的な言葉がけが多くできた。  振り返りを3学年一緒に行ったが、年少児には時間が長いのではないかと。工夫が必要。 しかし、担任として子どもの姿をよく捉えていて、明日の活動につながる言葉がけができていた。 
Step3 5分	④全体共有 じっくり考えようとする姿、友達と一緒に取り組もうとする姿、年少児を気遣って声をかける姿など、子どもの成長が感じられた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に落とし込んで、保育者同士が共有したり、保護者にも周知したりしていきたい。 ⑤まとめと振り返り 保育案を作成し自分の保育を言語化して、実践、見取り、対話を重ねることを継続したい。



園内研修 実践事例

テーマ

ちょこっと園内研修
～お昼寝時間を利用して～

目的

子どもの様子や保育について、毎日、職員間での共通理解を図り、自身の保育観を広げるとともに、職員同士の風通しをよくする。

概要

【進め方】

・午睡の時間に10～15分間、情報共有をする。

・内容

① その日の子どもの姿を話す

その日の子どもの姿から話すことを基本とし、出来事や職員の援助、思いなどを共有する。

*保育カンファレンスシート(P.46参照)などの利用も考える

② 困ったことや気付きを話す

子どもへの対応などに困った職員が様子を話し、他の職員の意見を聞いたり、お互いの気付きを出し合ったりして、些細なことでも情報交換して不安が残らないようにする。

③ 保育内容について話す

情報交換も含め、午睡後の保育の流れを確認したり、行事に向かったの保育活動の流れなどを話したりする。

【メリット】 短時間の活用でチームの関係性が築かれ、明日の保育につながる。

・日々の午睡時間を活用することで、1回は短時間だが継続的な積み重ねができる。

・日常的に行うことで、互いに構えることなく話すことができ、積極的に参加できる。

・一人では読み取れなかった子どもの様子を担当者全員で共有でき、子ども理解が進む。

【めざすこと】 保育の質や同僚性(職員の良好な関係性)の向上につながることを意識化する。

・「おしゃべり」から「語り」へ

継続することで、言いたいことを整理して話したり、聞き手を意識して話したりするようになり、内容が深まっていく。例えば、漠然とした話し方から、子どもの気持ちや自身の援助についての考察も加わり、前向きな捉え方や支援の方向も含んだ「語り」に変化していく。

・育ち合い学び合う保育者集団に

子どもや保育について話すこと、自分の思いや考えを語ることが当たり前となり、構えることなく自然体で言葉が出てくるようになる。また、話題となった子どもそれぞれのよさを共有したり、それをどう感じて関わっているかという、その職員のよさを認め合ったりできる。職員同士の風通しがよくなり、自分自身の保育を振り返る機会にもなって、チームワークのよい、学び合う保育者集団が形成される。

内 容

【ある日の2歳児クラス(2歳児18名 保育士3名)の「ちょこっと園内研修」】 13:20~13:35



他クラスで感染症の子どもが増えているよね。消毒の方法を今一度、確認しましょう。



雨が当分降らないようだから、お部屋の加湿と職員の手指消毒も念入りにしないかね。

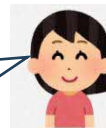
引き続き子どもたちの手洗いの徹底と便座やおもちゃの消毒が必要ね。

きょうだい関係での広がり不安だけど、他クラスの先生方とも連絡合って細やかに子どもたちの様子を見ていきましょうね。



そう言えば、今朝は〇〇ちゃんが泣いて登園しましたね。

先週がお休みだったから、体調が万全ではないのかしら？



私、〇〇ちゃんのお母さんの表情が、最近何となくすげないなあという感じを受けていました。



お母さんにもそれとなくお尋ねしてみましょうね！

そうなのね。〇〇ちゃんもお母さんも、体調的にすぐれないとか、何か気になることがあるとか…なのかもしれませんね。進級に向けていろいろな活動が続いているけれど、一人ひとりを丁寧にみていきましょうね。

何となく感じていたことですが、お話できてよかったです。安心しました。



略

振り返り

午睡時に日々、担当職員で情報交換や保育の振り返りができるので、安心して保育をすることができ、関係性を築くこともしっかりできている。

この日は感染症への対応から始まり、登園時に気になる様子だった子どもについて、進級行事について、ひな祭りの製作物の相談まで話がどんどん進んだ。限られた時間内では情報交換が多くなる傾向があるのだが、一つの事柄をじっくり話す日を意識的に設け、子どもの姿を複数の目で捉え直すことも心がけている。

しかし、このような日々の振り返りは当たり前のこととの認識から、それが「保育の質の向上」や「保育者同士の同僚性を育むこと」につながっていると気付いていない面もある。「ちょこっと園内研修」として捉えることで、日々の積み重ねが大きな成果につながっていくことを意識していきたい。

テーマ

環境構成を園全体で共有しよう
～マップ作成を活用して～

目的

子どもたちが主体的に遊びに向かうための環境構成を園全体でどのように共有するのか、マップ作成から考えていく。

概要

子どもたちが園庭で遊ぶとき、クラス内で広がっている遊びだけでなく、個々の興味・関心に合わせて好きな遊びを選べる環境をつくっていきたい。
園庭のどこでどのような遊びができるのか、子どもにも分かりやすく伝えるための取り組みを始めた。

内容

【テーマの共有】

- ・担任は、子どもたちが興味をもっているものの中から毎月の遊びのテーマを決める。
- ・各クラスから出てきた毎月の遊びのテーマを全職員で共有する。
- ・共通するテーマだった場合は一緒に環境を準備し、職員同士の関わりも深める。

【マップ作成】

環境構成グループが3月の園庭のマップ「3がつなにしておそぶ？」を作成する

環境構成グループとは

→0歳児～5歳児のクラス担任10名で構成されたチーム

緑の葉っぱをいっぱい見つけてね



春探しの図鑑
や虫眼鏡を準備
しているよ

作成後は玄関横の大きなガラス窓に貼る



園庭のどこでどのような遊びができるのか、子どもたちに分かりやすく写真と文字で表示する



もうすぐ卒園する年長さんへのメッセージコーナーをつくろう

【マップ掲示後】

随時、職員と子どもたちがメッセージ(思いやアイデア)を書き込んでいく

先生たちからのメッセージも書き入れる

ここで 10 時からペープサートをするよ！遊びに来てね



「あっ！ここ楽しそう」「今日はここで遊ぼう！」
子どもたちは外に出ると、マップを見ながら自分の興味・関心に合わせて遊ぶ場所を考えている

ここでケーキ屋さんをオープンしています
飾りに使うきれいなお花があったらもって来てください



子どもたちが発見したことや楽しかったこと、できるようになったことなどを書いて友達にも伝えられるようにする



子どもたちからのお願いや友達に手伝ってほしいことなども自由に記入していく

振り返り

成果としては、マップを作成し掲示することで、子どもと職員だけでなく、お迎えに来た保護者にも遊びの広がり共有することができた。園で体験した遊びを子どもが家で話した際、写真や文字で掲示されているマップを保護者が確認できているため、伝わりやすくなり、家庭での会話が増えたとのことだった。

また、可視化することにより、園庭全体を生かして遊んでいるか、必要な物や数が十分に準備されているかなど、職員が環境構成について意識を向けることができた。その結果、子どもたちの「やりたい！」という興味・関心を引き出し、夢中になって遊ぶ姿が見られるようになった。

今後もマップを活用し、遊びの広がり子ども・職員・保護者が共有しながら、子どもたちの興味・関心を引き出して遊び込める環境を充実させていきたい。

テーマ

保育を振り返ろう
～ドキュメンテーション作成～

目的

子どもたちの様子や保育者の対応など、伝えたいことをドキュメンテーションとして作成し、持ち寄ることで見えてくる保育に対する考え方などを職員が共有したり、保護者に子どもの成長を発信したりしていく。

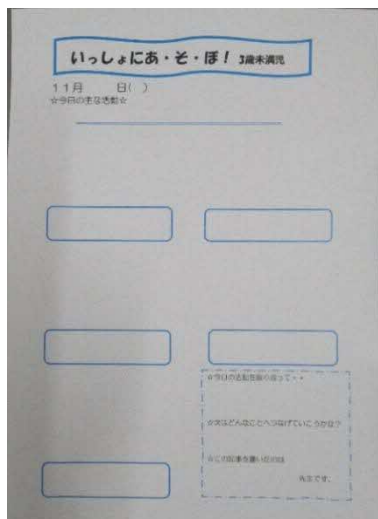
概要

園で初めてのドキュメンテーションの取組を行う。

まずは1か月間限定で毎日5枚程度、今日の子どもたちの活動で伝えたいこと・知っておいてもらいたいこと・その日の活動に対しての子どもたちの反応等をテーマにして写真を撮り、それをもとにドキュメンテーションを作成し、保育を振り返ることにした。

内容

【ドキュメンテーションの作成】



簡単に作成しやすいようにと「いっしょにあ・そ・ぼ」という様式(左写真)をつくった上で、写真5枚を厳選しコメントを記入したドキュメンテーションを作成し、クラス前に掲示した。

「写真を5枚選んで撮影と言われても、伝えたい場面がたくさんあって・・・」と指定した枚数の倍以上撮る職員もいて、写真を厳選するために時間がかかった。

保護者に見てもらうため、担当職員のコメント記入も言葉を選んで書かなければならないという意識が働き、想定以上に時間がかかった。何度か経験することで、始めた当初より載せたい内容も考えて撮影することができるように変化していった。

【作成にあたって】

担任職員だけではなく補助職員も交替で写真を撮った。

特に未満児クラスは複数の担任なので、「一人の眼で見るだけではなく違った目線で子どもたちの様子を知ることができた。」「作る過程では、子ども一人ひとりの活動をじっくり観察したり、他の子どもとの関わり方を再確認したりできた。」という意見が出た。



以上児



未満児

分かりやすいようクラスの入口に貼り出す

【保育を振り返る】 掲示した2週間分のドキュメンテーションを持ち寄り話し合う。



3歳以上児と3歳未満児に分かれて“なぜこの場面を選んだのか？”の話し合いをする。

「子どもの目線に立って撮った」「先生とのやりとりを撮った」と写真を撮るときの考え方にも違いがみられた。一日の活動の中で、なぜこの場面を選んで保護者に伝えたいと思ったのか？ということや、同じ場面でも担任と補助職員の見ている視点の違いなどが見られ、お互いに見えていない部分が分かって共有することができた。同じ子どもが何度も出てきて、その日の遊びの流れが読み取れた。

保護者の反応はどうだったか？

- ・ 実際の写真とコメントを見ることで、子どもたちがどのような活動をしていたか、どんな反応があったのか、どんな表情をしていたのか、など環境設定や友達関係などが分かり、職員が伝える内容や状況が理解しやすかったという意見があった。



- ・ 朝は時間が取れない、夕方は子どもたちに気を遣いながら見るのが難しい。家に帰ってゆっくり園のホームページを見る方が見やすいという意見もあった。

振り返り

1か月間のドキュメンテーション実施だったが、今後、作成を継続するかどうかを話し合った。

<ドキュメンテーション作成のよい点>

- ① 保育を振り返る手段として、子どもの様子をじっくりと観察することができ、次の保育活動も考えやすくなった。
特に今回は、補助職員がどのように補助をして子どもたちのことを見ているか、また、同じ場面においても違う目線で子どもの姿を追いかけており、職員同士でも保育に対する考え方や、子どもの見取りや感じ方が違うことが理解できた。
- ② 保護者に保育活動を伝える手立てとなった。
「こんな感じで活動に参加していますよ。」など、子どもの様子を言葉で伝えるよりも、実際に写真を見せることで、より伝わりやすかった。
- ③ 子どもたちも写真の他の子どもの様子を見て、真似してやってみようとしていた。

職員の作業は、5枚の写真を選び、子どもの様子のコメント記入をするという2点にしたが、勤務時間外に時間を要した。作成する時間をどのように確保するかを考えると、続けることは負担になるという意見も出た。これらの課題に向き合いながら今回の取組のよい点を広く職員に周知し、今後はHP やクラス便り等にも反映させ、ドキュメンテーションにも年に数回、取り組みたいと考えている。

テーマ

保護者対応について考える
～ラベルワークを用いて～

目的

若手を含め、保育者それぞれの思いを引き出し、よりよい保護者への対応を共通理解し、チーム力の向上を図る。

概要

【本園で実施しているチーム力を生かした保護者支援】

・「ママ専用アドバイザー制度」～担任以外のアドバイザーを指名して自由に面談ができる制度～

相談の具体例としては、多子世帯の子育て、進学先について、家庭内のしつけ、卒園後の友達関係等

→アドバイスを受けた満足感よりも、話を聞いてもらったことへの満足感、またいつでも聞いて貰えるという安心感につながっている。担任と情報共有し、チーム保育につなげている。

・保護者対応の手助け～新任や若手保育者の保護者との個人面談時に先輩保育者が同席する等～

傾聴や共感の仕方、伝え方、ことばの選び方などの対応方法を学ぶことができる。電話対応の際には、あらかじめ内容や受け答えを先輩に相談し、電話中も隣で助言をもらう。

→先輩と若手が一緒に保護者対応をしていく中で課題を共有することで、互いの距離が縮まり、信頼関係が増して、若手から先輩に相談しやすい関係性を築くことができる。

・保護者対応研修⇒ **内容** へ

内容

【保護者対応について、ラベルワークを用いた職員同士の話し合い】

まず、保護者対応を考える上で6つの項目をあげて各保育者に問いかける。

それぞれが付箋に事例を記入し、一週間後の園内研修日(1回目)に提出できるよう準備しておく。

項 目	① 困ったこと(若手のころ) ② 保育者間で助けられたこと ③ 対応の際、気を付けていること、大事にしていること ④ 今、現在困っていること ⑤ 今後、保護者対応で考えられること ⑥ その他気付き
--------	---

【研修日1回目】 ○台紙にある項目にそれぞれが付箋を貼る。

○各保育者は、自分以外の意見や考えを読んでおく。

○保育者が常時見られるよう職員室に台紙を貼り出しておく。

○項目の中で似た内容をグループ分けし、意見を整理する。



・保護者対応の際、「気を付けていること」「困っていること」の両方の項目に共通の意見として「伝え方」が多かった。

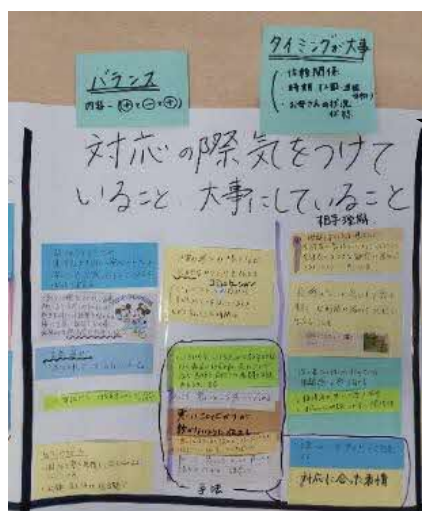
- ・相談事に共感的に寄り添い、こちらの思いを伝える
- ・保護者との思いの違い ・新任時代の保護者への対応
- ・支援が必要な子どもについて

○話合いの項目を絞り、2回目の園内研修までに自分の意見や考えをまとめられるように投げかける。

2回目は、項目③の「対応の際、気を付けていること、大事にしていること」について話し合えるように

【研修日2回目】 ○理解を深め、保護者への対応を共通理解することができるようにする。

・「伝え方」について自分の経験や考えを出し合う。



<対応の際、気を付けていること 大事にしていること>

- ・伝えるタイミング ・伝え過ぎない(伝える内容を選ぶ)
- ・伝えにくい内容は、よい内容でサンドイッチ
- ・事前に保育者間で内容を確認してから伝える

・他の保育者の意見を聞き、学びと確認の時間をとる。

- ・言葉選びや言い換え(リフレーミング)の事例を出し合う
- ・保護者との日々のコミュニケーションの重要性を確認し合う
- など改めて学び合う場となった



振り返り

6つの項目を設定して事例を集め、考えを出し合うことで保護者対応のポイントが見えてきた。「伝え方」についての迷いや悩みは世代に関係なく課題としてあった。事例を持ち寄ることで、今後の対応のヒントを与え合い、対応の上で大切にしている共通項も見えた。

今後は、今の時代に即した保護者対応が求められることも踏まえ、情報収集と共通認識が大切であるということも確認できた。

園内研修の進め方としてラベルワークを用いることで、自分の思いを予めまとめて持ち寄り、研修の時間短縮にもなった。また、職員室に貼り出しておくことでクラス担任以外の職員も目を通すことができた。この手法を今後も活用して保護者対応のチーム力アップにつなげたい。

テーマ

子どもの主体性を求めて
～「主体的な保育」について園全体で考えよう～

目的

子どもたちが自分の好きな遊びを見つけ、主体的になる保育を実践するために、保育者はどのような環境構成等を行えばよいか、写真や動画を持ち寄って考え合う。

概要

【昨年度までの振り返り】

- ・各クラスが活動時間に一つの活動を設定し、全員で同じことを行う。
→担任が何をするか決め、やりたくない子や苦手な子も強制的にしなければならない状況になっていた。
- ・縦割り保育の日を決め、3・4・5歳児が2時間ほど、一緒に活動を行う。
→縦割りには分かれているが、結局同じクラスの子と遊ぶ傾向にあった。(活動内容にもよる)
- ・担任からの指示で動くことに慣れ、子どもたち自身が考える機会が少ない。
→一斉保育を行うとどうしても指示をしなくてはならない。

【どんな保育をしていきたいか？】 ➡ 子どもが主体的に遊ぶ姿を求める

- ・子どもが自ら考えて遊びを選び、自分たちで発展させられるような保育をしていきたい。
- ・子ども一人ひとりが、好きな遊びを見つけ、輝けるような保育をしていきたい。
- ・子どもが自分から発言し、毎日が「楽しい！」と登園を楽しみにするような園生活にしたい。

【どうやって理想の保育をやっていくか？】

- ・子どもが主体的な保育をしている園を実際に見に行き、保育者自身が学ぶ。
そこから自園で取り入れられることはないか、工夫できることはないか園内研修や職員会議の他、すき間の時間も活用して話し合う。⇒ **内容** へ
- ・自園でできそうなところから取り入れ、実践してみる。
- ・園全体で取り組むことなので、園長・主任・副主任で主軸を作り、挑戦しようとしていることがぶれないように徹底する。
- ・正職員だけではなく全職員の理解が進むよう、決まったことは書面や連絡ツールの活用、口頭でパート職員にもその都度伝える。
- ・自分たちが行っている保育を様々な方に参観してもらう。乳幼セや系列園の先生方の参観後に、助言や評価をもらう。

内 容

【実践の写真や動画を持ち寄り、ねらいや子どもの様子、改善点等を職員会議で話し合う。】

《ある日の一日》

「ウキウキタイム」と名付け毎日 9:00～11:30、3・4・5歳児が好きな場所で好きな遊びをする時間を設ける。

《遊戯室》 感触あそび ～氷、高野豆腐、はるさめ、片栗粉粘土、寒天等を使って～

氷、つめた
いね！中に
いるポケモンを
助けよう！！



スポンジみたい！
ちょっと匂いもす
るね。



- ・触ることをためらう子どももいたので、袋やストックバッグに入れたものもあったらよいかも？
- ・寒天は色を全部混ぜてしまい、すぐに黒くなってしまった。後で来た子どもの中には、「汚いから嫌。」という子どももいた。

《ゆり組》 ままごとやごっこ遊び

- ・ゆったりとした雰囲気をつくり、それぞれが思い思いに遊ぶことができた。
- ・細々したおもちゃが多いので、3歳児は片付けが難しい様子だった。おもちゃの精選が必要だと感じた。



これをこうしたら、いいよ
ね！あれも作ろうよ！

《きく組》 製作コーナーや作ったもので遊ぶコーナー

- ・自分がイメージしたことを製作で表現できている。
- ・3歳児に途中で壊されたり、邪魔されたりすることがある。どうしたらよいかを検討する。



振り返り

このように写真や動画を見ることで、実際に見ていなくても、違うクラスの様子が分かり、お互いに色々な意見や考えを伝え合うことができた。また、研修中の雰囲気等をよくするには、ファシリテーターの導入の仕方や話し方がポイントだと思い、アイスブレイクを取り入れたり、全員から意見が聞けるように問いかけてみたりした。しかし、急に発言を促されることで緊張したり意見を言うことが苦手だったりする職員もいると思うので、その点への配慮も必要だと感じた。

関係するクラスだけのミニ研修のようなものを週1回15分程度でもできたらよいのかなとも感じている。職員の負担にならないように配慮しながら進めていきたい。

【巻末資料】 すぐ使える研修シート

園内研修テーマ検討シート

年 月 日 記録者()

園目標

研修テーマ 自分の園の実態や特色を整理して、研修テーマを設定する。		
キーワード	よい点だと思うこと	課題だと思うこと
① 【例】子どもの実態		
② 【例】遊びの様子		
③ 【例】園内の様子		
④		
⑤		
⑥		

研修のための資料など

個人用 リフレーミングシート

使い方:各自5分程度で記入する(事前に記入して参加しても可)

① 事例（短く） 誰がどうした(行動や言葉)	
② 自分の反応・感情 (チェック + ひと言)	☐ 困った ☐ 良くないこと ☐ 驚いた ☐ イライラ ☐ 悲しい ☐ その他 () ひとつこと ()
③ 行動や言葉の背景にある 発達の意味・育ちの視点 (チェックまたは記入)	☐ 自己主張 ☐ 興味・関心 ☐ 感情調整 ☐ 意欲・集中 ☐ 関係づくり ☐ ルール理解 ☐ その他 ()
④ リフレーミング (捉え直し) 今の言い方 ⇒ 言い換え	
⑤ ④から導いた援助 (かかわり・言葉)	

グループ用 リフレーミングシート

使い方：各自の事例とリフレーミングを紹介した後、他のリフレーミングはないか話し合う。

一つの事例につき3つ程度リフレーミングし、それぞれの場合の援助について考え合う。

事 例 (箇条書き)	育ちの視点 (多様な視点で)	リフレーミング 今の言い方→言い換え	援助のアイデア (かかわり・言葉)
	A		
	B		
	C		
	A		
	B		
	C		
	A		
	B		
	C		
	A		
	B		
	C		
【まとめ】共有したこと・気付き			

フォトラーニングシート

年 月 日 記録者()

①写真のタイトル	写真添付

②この写真を選んだ理由

--

③「タイトル」「この写真を選んだ理由」「写真の様子」について語り合い、気づきや考え、感じたこと等をメモする

--

④フォトラーニングを通しての気づきや考え、感じたことをまとめる

--

エピソード記録シート

【 ○歳児 】事例

タイトル

○月 ○日(曜日) 天気()

ひとまとまりのエピソードについて、子どもたちが、どんな活動をして、どんな言葉を発したか、活動がどう展開したかを事実と読み取りに分けて書く。

・下記のように、事実は「幼児の活動」として、読み取りは「保育者の援助」に書き表すことができる。

環境

幼児の活動

保育者の援助

・写真添付により、場面の説明を視覚的に補助することができる。

気 付 き ・ 考 察

ひとまとまりのエピソードについて、子どもたちの活動にどのような意味があるのか、子どもたちが、どういう思いでその言葉を発したか、保育者として、どのような思いや考えからその援助や環境構成を行ったか、ということを考察する。

保育カンファレンスシート

キーワード
・嬉しかったこと
・困ったこと など

事例の分類
・特別支援教育
・幼児理解
・環境構成
・保育者の援助など

事例の分類を
記入する

キーワード()

月日(曜日)		場所	
だれが			
なにを			
どのように どうした など			
どう思う? なぜ など			

話し合おう! 子どもの思い

--

保育者のかかわりや環境構成

--

ドキュメンテーションシート

子どもの姿やつぶやき

記録者() 年 月 日

自分の心が動いた瞬間、同僚や保護者等に紹介したい場면을捉えて、書く。

写真やイラスト等の添付で視覚化する。

保育者として感じたこと・気付いたこと

なぜ、この場面を選んだのか、心に残ったのか、同僚や保護者等に何を知らせたいのか、自分と対話する感覚で書いてみる。

- ・子どもの姿を自分がどう受け止めたか？
- ・この場面の嬉しさ、楽しさはどこか？ など

子どもの姿から期待することや見通し(願い)

- ・この場面から、子どもにはどんな力が育っていると考えられるか？
具体的には、5領域や「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」で表すことができるか？
- ・今後、子どもたちにどのように育って欲しいか？ など

【事例提供園】

学校法人 徳山めぐみ幼稚園

学校法人 協学園 認定こども園 松崎幼稚園

下関市立豊浦こども園

社会福祉法人 華陽会 西須賀保育所

社会福祉法人 南大嶺福祉会 南大嶺保育園(令和8年3月末閉園)

社会福祉法人 吉敷愛児園 愛児園乳児保育所

【参考文献】

- ・文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館(2018年)
- ・厚生労働省 「保育所保育指針解説」 フレーベル館(2018年)
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館(2018年)
- ・香川県教育委員会 「園内研修の手引き～ときめく明日の保育のために～」(2017年)
- ・高知県教育委員会事務局 幼保支援課 「指導計画・園内研修の手引き～つくろう 笑顔の輝く明日の保育～【改訂版】」(2020年)
- ・鈴木健史(著) 矢藤誠慈郎(解説) 「園内研修と会議が劇的に変わる 保育ファシリテーション」 フレーベル館(2023年)
- ・秋田喜代美(編著) 「研修アドバイザーと共に創る 新しい園内研修のかたち」 フレーベル館(2023年)
- ・秋田喜代美(監修) 松山益代(著) 「参加型園内研修のすすめー学び合いの「場づくり」ー」 ぎょうせい(2011年)
- ・那須信樹他 「手がるに園内研修メイキング みんなでつくる保育の力」 わかば社(2020年)
- ・那須信樹他 「気がるに園内研修スタートアップ みんなが活きる研修テーマの選び方」わかば社(2020年)

【作成協力】

幼児教育アドバイザー

園内研修の手引き

発行年月日 令和8年3月

発行・編集 山口県乳幼児の育ちと学び支援センター

〒753-0850 山口県山口市滝町1番1号

☎ 083-933-4450

✉ a50908@pref.yamaguchi.lg.jp